

クラス番号	614	担当教員名	横井 優子
テーマ	地域で子どもと家族を支援するための福祉・心理臨床		
著書・論文	著書・論文；・「魂と心の知の研究」 創元社 「電話相談とその対象」 (296-302) (2001) ・修士論文「児童虐待における地域支援 ―ネットワークの構造から考える―」 日本福祉大学 社会福祉学研究科 福祉マネジメント専攻 (2004) ・日本福祉大学心理臨床研究センター紀要 創刊号 「発達障害の子どもを持つ親への支援―子どもへの共感が難しい親との面接から―」 (83-96) (2006)		
研究課題等	・日本福祉大学心理臨床研究センター紀要 第3号 「幼児教育における保育カウンセラーの機能について―個別支援と集団への関わりについて―」 (45-54) (2008) 研究課題等；・児童虐待防止や発達障害など地域での子育て支援のための協働，及び幼稚園・保育園や小中学校での教師との連携や協働の研究		

ゼミナール概要

キーワード：子育て支援，学校臨床，協働，連携

目的：子どもが生まれ育っていく際，家族には 様々な支援が必要となる。一つの機関や専門家だけでなく，地域でそれぞれの専門家や各機関が，協力して支援することが必要になることも多い。子育ての際に，様々な理由から周囲からの支援が必要な親や，発達障害などのために通常の子育てでは関わることの難しい子ども達もいる。児童虐待など，子育ての難しさから起こる事件を防ぐためには，保健・福祉・教育など，様々な機関の連携が必要である。乳幼児では，保育園・幼稚園・子育て支援センターなどが行う育児支援の流れや，乳幼児健診から療育までの発達障害の子どもへの支援体制など，いくつかの機関が協力して行う協働，連携という視点で，学習・研究を行う。また，小中学校では，義務教育で起こってくる不登校や，学校での適応問題に対して，教師とは違った視点を持つ専門家として子どもや保護者と関わり，教師と協働し，他業種の視点を加え，協力体制を組むことを学習・研究する。

授業計画（内容、方法等）：他業種の人達と関わる際には，対応に必要な相談者を個別に見立てるだけでなく，集団も含めて，今ある問題は何か，どこから取り組むのかを支援者として見立て，他の職種の人たちにも理解できるように伝えるということが重要である。「不登校」という状態をひとつ取り上げても，神経症，発達障害，家庭環境の問題など，様々な原因によって起こっている可能性があり，様々な可能性を考慮して判断していかなくてはならない。また，視点はひとつだけでなく，子どもと関わることだけでなく，家族や学校などの状況を判断し，支援，環境調整することも必要になる。このような多面的な視点で問題を考えることを学習する。授業では論文を読みながら，基礎的な知識を身につける。論文を要約して，レポートにまとめて自分の興味関心を明確にしていく。その上で，レジュメを作り，相互に口頭で発表する機会を持つ。現場の見学等も考えたい。

*使用テキストについてはゼミの中で紹介します。

担当教員からのメッセージ



テーマは与えられるものではなく，自分で絞っていくもの。自分の興味関心のあることに積極的に取り組んで欲しい。

プライバシーの配慮など，福祉・心理に関わる者に必要な基本姿勢や配慮について，意識と自覚を持って取り組むことを基本とする。

*子どもへの関心があり，協力して地域でサポートしていくという視点を持てる方を歓迎します。自分の意見をそれぞれ表現できて，他の人のどんな意見にも耳を傾けられるゼミにできたらと考えています。